

令和2年12月3日

根本正顕彰会会報 第95号

発行者 根本正顕彰会

「踏まれても根強く忍べ路芝のやがて花咲く春をこそ待て」

目 次

1 巻頭言「敬老の日・そして戦後75年の節目の年に当たって」	会長 増子輝雄 1頁
2 令和2年度根本正顕彰フェスティバル（附資料）	2頁
3 那珂市立木崎小学校4年生がオンライン授業で根本正を学ぶ	16頁
4 <寄稿文> 埼玉古墳群と忍城を訪ねて 菅谷地区まちづくり委員会 事務局長 吉原 正夫氏	20頁
徳川光圀 一根本正に影響を与えた水戸藩第2代藩主一 海老根敬理事	21頁
常陸太田市 青蓮寺に残る病父を訪ねて三百里 豊後国 二孝女がとりもつ縁（附資料） 勝山 昇理事	22頁
根本正と幕臣たち 一荒井郁之助と江原素六一 仲田昭一理事	25頁
編集後記	副会長 山田正巳 27頁

【お知らせ】

第2回公開講座

日 時 令和3年2月21日（日） 13：30～15：30
会 場 那珂市中央公民館 2階 講座室
テー マ 「国会の中の根本正」（災害への対応）
講 師 根本正顕彰会副会長 横地富子氏

敬老の日・そして戦後75年の

節目の年にあたって

根本 正顕彰会

会長 増子輝雄

今年もまた9月に「敬老の日」を迎えた。本県内における65歳以上の高齢者は約84万5千人で、総人口に占める割合は29.9%となっており、本県の高齢化率は2,015年以降全国平均を上回り年々高齢化が進んでいる。

例年であれば長寿を祝う様々な行事が各地で開催されていたが、今年は新型コロナ禍の影響でそれらの行事が残念ながら中止が相次いでしまっている。

近年の高齢化の進展により我が国の社会保障制度の確立が図られ、医療・年金・介護などの充実は、費用負担の問題はあるが高齢者には大変有難く喜ばしいことである。

「人生100年時代」という言葉があるが、大切なのは毎日が健康で過ごせる健康寿命だと思う。

高齢者の豊富な経験や知識を社会に生かし、生き生きとした長寿社会を築いていければと思う次第である。

一方、今年は太平洋戦争終結から75年の節目の年を迎えた。戦争を知らない戦後世代が圧倒的多数を占める中にあって、本来なら戦争の惨禍を思い起こし平和を伝えるさまざまなイベントが各地で行なわれるところであるが、前述の敬老の日と同様にコロナ禍の中で中止や規模の縮小などを余儀なくされ、終戦後積み上げてきた平和構築の歩みが揺らぐのではないかと危惧したところである。

戦争の悲惨さを次世代に伝え、絶対に戦争をしない恒久平和作りに努めなければならないことは当然である。

私自身の戦争の記憶・体験を二点ほど挙げてみたい。一つは終戦直前の昭和20年8月1日未明の水戸市の空襲が忘れられない。当時6歳の時であった。水戸の中心市街地まで約7キロ離れた自宅から見た南の空が真っ赤に染まり、夜が明けたら一面紙類を主とした灰だらけであった。多くの死傷者を出し県都水戸市は焦土化してしまったのである。

もう一つは家族のことであるが、昭和19年8月に父がニューギニアで戦死したことである。残念ながら私の中では父の記憶・面影は全く無いに等しい。

終戦後75年が過ぎ戦争の記憶が遠のいていく中にあって、幼い頃の戦争の記憶ではあるが少しでも後世に伝え、75年続けられてきた戦争のない平和な時代が未来永劫に引続かれるよう努力していくかなければならないと思う。

令和2年度 根本正顕彰フェスティバル

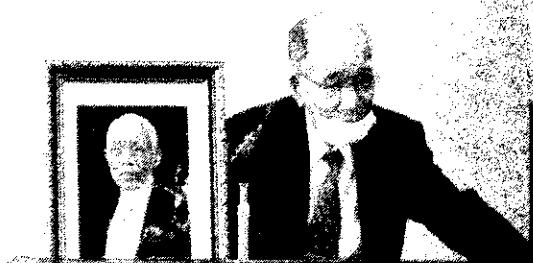
那珂市菅谷地区まちづくり委員会と合同で開催

日 時 令和2年11月21日（土） 9：00 ~ 11：30

会 場 那珂市中央公民館 2階 講座室

増子輝雄会長あいさつ

この新型コロナ禍の中、菅谷地区まちづくり委員会のご理解を得て開催できたことを共々に喜びとするところである。那珂市の生んだ優れた指導者を、是非多くの人々に知っていただき、皆さん方がそれぞれに力を発揮していただくとともに、お互いが協力しあってよりよい社会を作り出していくことを使命としたい。



<講 演>

根本正の生涯（増子輝雄会長）

増子会長が学んできた根本正の生涯を紹介。その内容は、学ぶ力を生み出した人的環境、飽くなき探求心と実践力を根底に、不屈の精神で貫き通した姿を、大きく青少年育成および国家・国民のための政策と地域貢献のための政策とに分けて、簡明にしかも情熱を以て説いたものであり、参会者には深い感銘を与えた。

大人にも子どもにも根本正のこの「生き方」を弘めていかねばならない。



菅谷地区の歴史的遺産（仲田昭一事務局長）

フェスティバルの定番となった内容で、那珂市内各地域の歴史を紹介するものである。

今回は、菅谷地区に多く残る館跡について、「菅谷七騎」と称される加藤・平野・飛田・高野・大和田・軍司・藤咲諸領主の姿を、地図上に落としたものを基に、具体的に学んだ。



また、山横目として地域を統括する役割を担った横須賀家と水戸光圀との関わりについて紹介した。

これらの歴史的遺産を、今後どのように活性化に生かしていくかが課題である。地区的動きに期待したい。

郷土が生んだ輝く政治家

「根本 正」顕彰フェスティバル

期 日 令和2年11月21日（土）
 会 場 那珂市中央公民館

日 程

区 分	時 間	備 考
1. 閉会のことば	9：30	
2. 主催者あいさつ 来賓あいさつ	9：35～	
3. 講 演 (1) 郷土が生んだ不屈の 政治家根本 正	9：40～10：20	講 師 顕彰会会長 増子輝雄
(2) 菅谷地区の歴史的遺 産	10：30～11：10	講 師 顕彰会理事・事務局長 仲田昭一
4. 質疑応答	11：10～11：20	
5. 閉会のことば	11：20	

主 催 根本 正顕彰会・菅谷地区まちづくり委員会

不屈の政治家 根本正の生涯

講師 根本 正顕彰会
会長 増子輝雄

1. 生い立ち
2. 水戸に出る
3. 東京に出発
4. 米国留学
5. 政治家を目指す
6. 海外移民地調査・商工視察
7. 国政での活躍
8. 政界引退

別表 = 根本正の年表

1. 生い立ち

根本 正は嘉永4年（1851）東木倉村（現 那珂市東木倉）で父徳孝・母はやの間に次男として生まれた。根本家は農業を営み庄屋を務める家柄であった。そして、水戸徳川家のために骨身惜しまず忠勤を尽くしていた。

正の祖父は学問的要素のあった人で、正が6～7歳の頃の少年時代に祖父より「読み・書き」を習った。正が9歳のときから神主の佐川伊豫之介の塾に通って学んだ。



2. 水戸に出る

正が13歳のとき、もっと上を目指して学びたいということで水戸に出て行くことになった。正の父徳孝の従兄義で「大日本史」編纂をする水戸彰考館の総裁であった豊田天功の家臣となった。豊田天功は当時水戸上市の新屋敷といわれる地（現在の水戸市立新荘小学校辺り）に屋敷を構えていた。天功に生え、天功亡きあと長子の豊田小太郎に仕え学問、武芸等を学んだ。豊田小太郎が暗殺され、亡きあと水戸藩南御郡方役となる。

その翌年正が17歳のとき、水戸藩御郡方奉行服部潤次郎からフランスのパリ万博土産の「時計とマッチ」を見せられ大変驚愕し、それらを生み出した背景にある外國語（英語）を学ぼうと決意する。

3. 東京へ出発

正が20歳のとき水戸藩の役人を辞めて上京する。人方車夫をし、その後警視庁の巡査になり働きながら蘭学者簗作秋坪の「三又学舎」、翻訳者中村正直の「同人社」に学んだ。この中村正直との出会いがキリスト教入信へのきっかけとなった。その後駅逕寮（外国郵便）に就職し、神戸、横浜局に勤務した。

横浜で働きながら「ヘボン塾」に入門し英語を習った。そして横浜の住吉教会で洗礼を受ける。こうして学びながら渡米の機会を探っていた。

4. 米国留学

正が28歳のとき横浜郵便局に勤めるアメリカ人の紹介で渡米することになった。アメリカのオークランドの小学校に入学し、弁護士のバラスト一家で働きながら2年間で小学校を卒業する。続いてポブキンス中学校に入学し寄宿舎の給仕などをしながら4年間学んだ。中学校卒業後バラスト一家の紹介でバーモンド州の富豪ビリングス氏にお世話になり、バーモンド大学で4年間学んだ。卒業式には代表10名の1人に選ばれ英語で演説している。10年間のアメリカ留学で多くのことを学んだ。

留学を終えてアメリカからの帰路見聞を広めるため、ビリングス氏の支援を受けてイギリス、ドイツ、フランス、イタリアの4カ国を視察して日本に帰国する。

5. 政治家を目指す

米国留学から帰国後帰郷しているとき、板垣退助伯爵から電報で愛國公党（後の政友会）への誘いを受けた。そして入党し政務調査員となり調査研究、各地への遊説、翻訳書の出版などをしながら政治家を目指すこととなる。

- 明治23年（1890）第1回総選挙、続いて明治27年（1894）の第3回総選挙に立候補するもいずれも落選する。

6. 海外移民地調査、商工視察

長い海外留学の経験を高く評価されて外務省、農商務省の命令により、海外移民地の探検調査、商工視察として明治26年～明治32年までの間、メキシコ、中央アメリカ、南米ブラジル、北米、東南アジアに合計4回視察出張する。そのたびに膨大な調査報告書を提出している。

7. 国政での活躍

明治31年（1898）の第5回総選挙に立候補し初当選を果たす。以後大正13年（1924）まで26年間衆議院議員を務める。

根本 正は特に教育立国を目指し教育の充実、青少年の健全育成を重点として不屈の精神で政治活動に取組んだ。

衆議院議員としての主な業績

- （1）国民教育授業料全廃建議案提出（可決）
- （2）小学校教育費国庫補助法案提出（可決）

- (3) 未成年者喫煙禁止法案提出 (可決)
- (4) 未成年者飲酒禁止法案提出 (21年間心血を注いで成立)
- (5) 利根川水害被害状況調査治水対策に尽力
- (6) 高層気象観測所設置の建議 (つくば市に設置)
- (7) 水郡線建設の建議案提出
 - (昭和2年水戸一大子間開通)
 - (昭和9年水戸一郡山間全線開通)
- (8) 東海村砂防林植栽に貢献

8. 政界引退

大正13年（1924）衆議院議員選挙落選政界を引退する

昭和 8年（1933）東京三田の自宅にて死去

平成26年（2014）那珂市名誉市民に選定され称号が贈られる



生誕地の碑



根本正が好んだ古歌
(根本喜代治氏所蔵)

根本 正が教育・青少年健全育成に關係した主な事項

年 号	事 項
明治 31年	国民教育授業料全廃建議
〃 32年	小学校国庫補助法案提出
〃 〃	未成年者喫煙禁止法案提出
〃 33年	國字、國語、國文改良の建議
〃 34年	未成年者飲酒禁止法案提出
〃 〃	国民教育及び鉄道貨車に関する質問書
〃 35年	普通教育教科書中憲政の要旨編入の建議
〃 36年	教育及び行政に関する質問書
〃 37年	国定教科書に関する再質問書
〃 38年	市町村立小学校教員俸給国庫補助金増額に関する建議
〃 39年	商科大学設立の建議
〃 40年	小学校教員待遇に関する質問書
〃 〃	小学校教員退職料及び違旅扶助料法の改正案
〃 42年	ローマ字普及の建議
〃 〃	市町村立小学校教育費国庫補助法中改正法律案に委員長として取組む
〃 〃	小学校教科書図表に関する建議
〃 43年	帝国学制案（算代小教員給与全額国庫負担化）提出
〃 44年	小学校教員優待の質問書
〃 45年	教育予算についての質問
大正 7年	帝国教育会から「教育功労者」として表彰される (明治32年から大正9年まで帝国教育界の評議員とその副議長)
大正 11年	未成年者飲酒禁止法案成立

※ 根本 正は青少年健全育成を図るため未成年者に対する喫煙、飲酒禁止法案を提案した。

未成年者喫煙禁止法案 ~ 提案可決

未成年者飲酒禁止法案 ~ 提案可決

(未成年者飲酒禁止法案は可決まで21年の歳月を要した ~ 審議経過別紙)

「未成年者飲酒禁止法案」の審議経過

石器與農耕「全般社會的發展程度」，總體地說來，「一九四九年以來，中國社會經濟發展程度之變動，其速度之急劇，為歷史上所未有。」¹ 未幾年間，中國社會經濟之變動，其速度之急劇，為歷史上所未有。² 〔註一〕

根 本 正 の 年 表

年 号 () は西暦	年齢	経 历
嘉永 4年 (1851)		東本倉村 (現 那珂市東本倉) に生まれる。
万延 元年 (1860)	9	神職の佐川伊豫之介の塾に学ぶ。
文久 3年 (1863)	12	豊田天功の家臣となり、水戸学に触れる。
元治 元年 (1864)	13	豊田天功死玉。子息小太郎に仕える。
慶応 3年 (1867)	16	水戸藩廃後御方役人となる。
明治 元年 (1868)	17	水戸藩東御部方奉行服部潤次郎から、バリ万博士座の時計とマッチを見せられカルチャーショックを受ける。
明治 4年 (1871)	20	役人を辞めて上京。 蘭学者篠作秋坪の「三叉学舎」に入門。 初試験で花崗の「開入社」に学ぶ。
明治 5年 (1872)	21	師承に花崗こと正。
明治 7年 (1874)	23	明治政府の官吏として新潟に赴き、鐵道 検査員に任命。「へ組」候。出立候。
明治 10年 (1877)	26	横浜の生糸や穀物（銀座支那銀行）で銭を貯める。
明治 11年 (1878)	27	シチズ・カブ・ベキシ等で遊ぶ。
明治 13年 (1879)	28	オーランジードル学園に入校。
明治 14年 (1881)	29	オランジードル学園に入校。
明治 18年 (1885)	33	パリ・カブ・ベキシ等で遊ぶ。
明治 22年 (1889)	37	パリ・カブ・ベキシ等で遊ぶ。 ノルマン、ドゥル、フランス、イタリア4國を訪問。
明治 23年 (1890)	38	近頃達成任務から電報で勧説を受け愛国公党（後の政友 会）に入党し政務調査員となる。 第1回吉田議会衆議院議員選挙に立候補するも落選。
明治 26～32年 (1893～1899)	42～ 48	琴痴徳子（幕末の勤皇家 桜任藏の孫）と結婚。 東京禁酒会設立 会長 安藤太郎 副会長 根本 正。 外務省・農商務省命令により、海外移民地探検・商工視 察としてメキシコ・中央アメリカ・南米ブラジル・北米・ 東南アジアに計4回出張。
明治 27年 (1894)	43	帝国議会衆議院議員選挙に立候補するも落選。
明治 31年 (1898)	47	帝国議会衆議院議員選挙に立候補し、初当選。 国民教育授業料全廃建議案・小学校教育費國庫補助法案 提出、可決。

年号()は西暦	年齢	経歴
明治32年(1899)	48	未成年者喫煙禁止法案提出、可決。
明治33年(1900)	49	未成年者飲酒禁止法施行(4月)。
明治34年(1901)	50	未成年者飲酒禁止法提出。
明治39年(1906)	55	利根川水害被害状況調査。
明治43年(1910)	59	高層気象観測所設置の建議。(大正9年つくば市に設置)
明治44年(1911)	60	水郡鉄道(当初は白水線)建設の建議案提出。 (昭和9年(1937年)常陸太子まで開通) (昭和9年(1934年)水戸~郡山間全線開通)。
大正7年(1918)	67	東海村砂防林植栽に貢献。
大正11年(1922)	71	未成年者飲酒禁止法成立。 (21歳心血注いだ法案成立・正の心境は次の歌に表されている) 「誰されても 絶強く惹く 菊芝の やがて花咲く 春を 心を咲かせ 友愛会を発起する」。
大正13年(1924)	73	82歳差で大説流諺劇連作公演「秋本をも送りし」。
昭和6年(1930)	79	大平町立映像館建立される。
昭和10年(1935)	82	東京・五反の高野にて死没。 (東京青山の墓地に眠る。後に那珂市東大倉に移葬される)
昭和19年(1934)		水郡線全線開通。
昭和18年(1943)		喜津子死去(74歳)。
昭和26年(1951)		根本正生誕10周年式典開催(主催・玉造村)。
昭和41年(1966)		根本正顕彰会人選議会より「功をあげた人一等大正賞」 受取る。
昭和44年(1969)		大平町立映像館建立される。
昭和46年(1971)		「郷土史にかがやく人々」に取り上げられる。 (茨城県の先覚者41名の伝記)
平成7年(1995)		「役本正伝(未成年者飲酒禁止法を作った人)」出版される。 (著者は仙台市在住加藤純二氏)
平成9年(1997)		根本正顕彰会発足。
平成10年(1998)		那珂市東本倉根本家敷地内に「生誕地の碑」建立。
平成13年(2001)		「根本正顕彰館」建立(那珂市中央公民館前)。
		根本正生誕150周年記念式典開催(主催・根本正顕彰会) (記念誌発行、ビデオ作成、シンポジウム開催等)
平成20年(2008)		「根本正伝」出版(発行 根本正顕彰会)
平成26年(2014)		那珂市名誉市民に選定され称号が贈られる

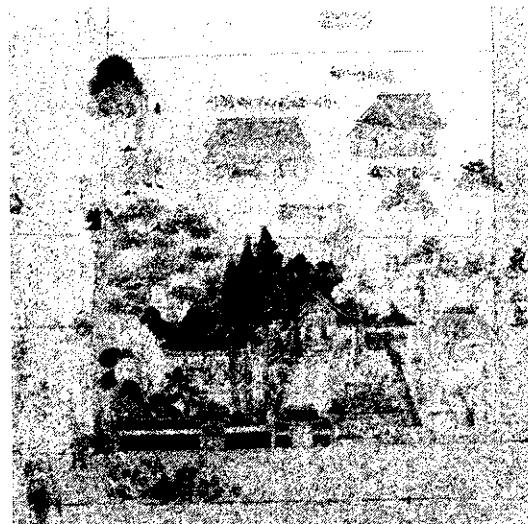
菅谷地区の歴史的遺産

1 館 跡 「高野氏館跡」発掘調査(平成18年2月)



寄居	(平野豊前)
鶴内	(加藤安房)
仲の房東	(軍司雅楽允)
高内	(宮田掃部頭)
一ノ関	(藤咲丹後)
中宿東	(高野丹後)
地天	(飛田宇角)
中坪	(福田和泉)
みの内	(柏村越前)
堀の内	(大和田主水)
仲の房	(関口左衛門尉)

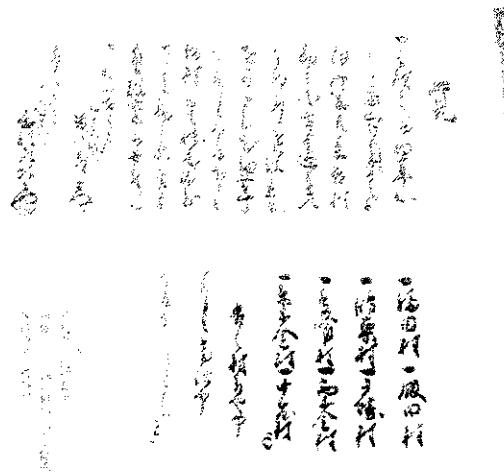
2 横須賀家関連(天保期:検地絵図屋敷図)



(義公宿泊して観桜会)



延命院(真言宗;廃寺)

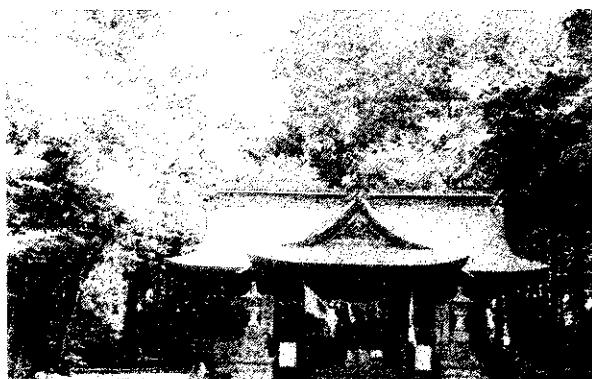


3 横須賀勘兵衛宛て義公用状

其村々ニ而初貢出
申候ハゞ、西山御用ニ有之候間、
何時成共、菅谷村
勘兵衛方より通達次
第為取候而、右勘兵衛方へ、
遣可被申候、尤初貢
いかほど為取遣候と、
何村ニ而も帳面ニ致置、
可被申候、勘兵衛方より
員数重而書付ニ而、
申出答候、以上
(郡奉行)林十左衛門代

皆川幾衛門印

4 鹿島神社関連



両宮(鹿島・八幡神社)→安政4年:1857勧請
文久2年:1862 奉納「三十六歌仙扁額」

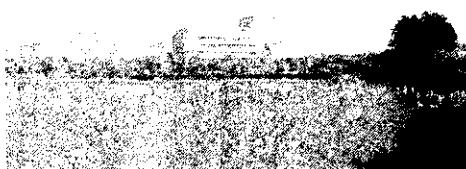
鹿島神宮にも関連祭事、やはり勧請ですね



不動院(真言宗、両宮の神宮寺として15世紀創建) 正覚寺(浄土真宗、承安2年:1300創建)



昭和47年9月 苔谷駅にSL



仲福田:如意輪觀音像

飛田家のカヤ(市指定天然記念物)

一ノ門親水公園周辺

合村全図「復元地図」

合村村全圖に描かれている情報を、現代の都市計画図の上
である。

こ表されている道を一で示した。河川及び水路を～で示し、
用を窓で示した。寺社の範囲を■で示した。

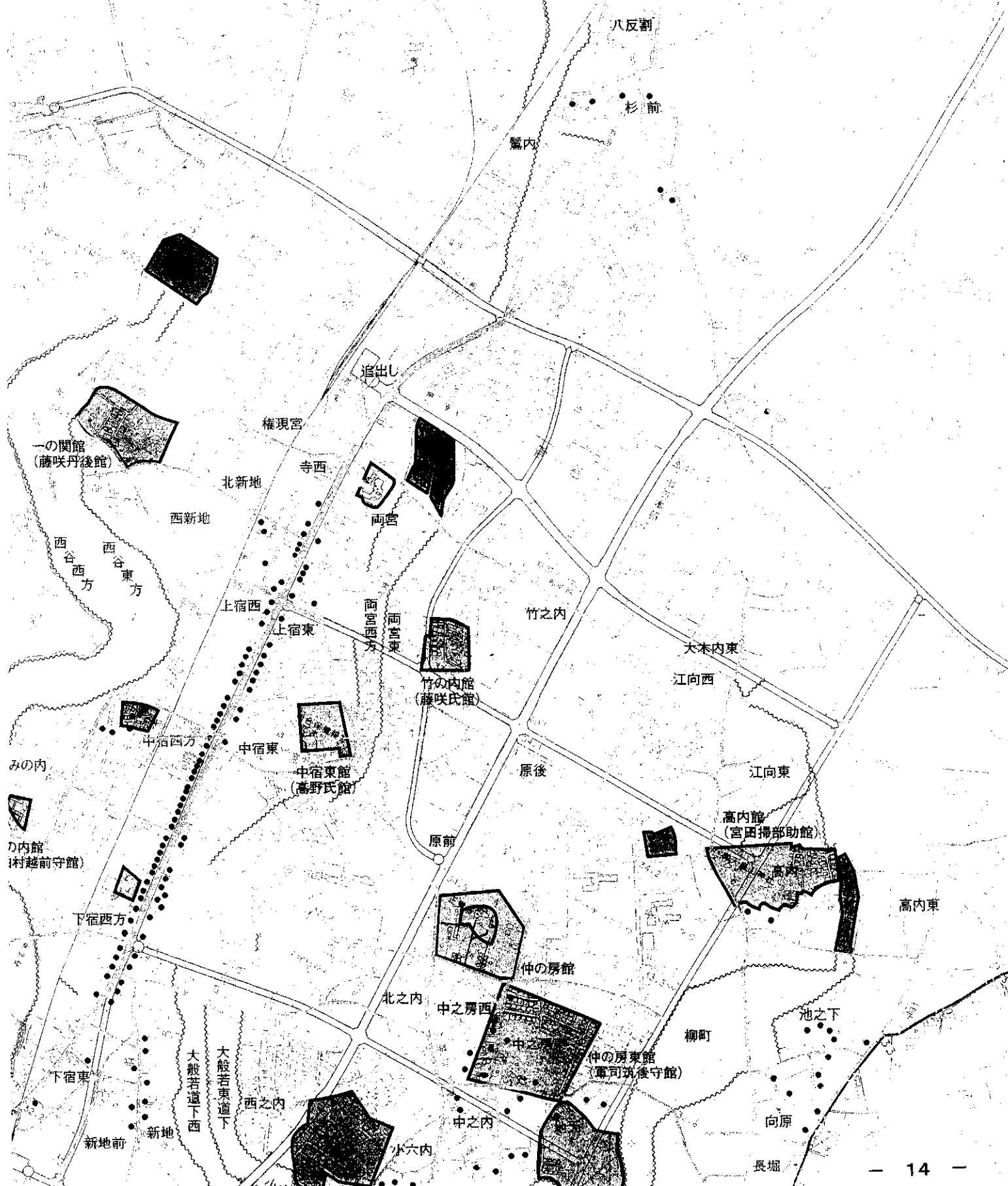
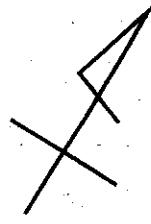
こ見られる民家を。で示した。また、合村村全圖に表記さ
るを竹之内のように示した。

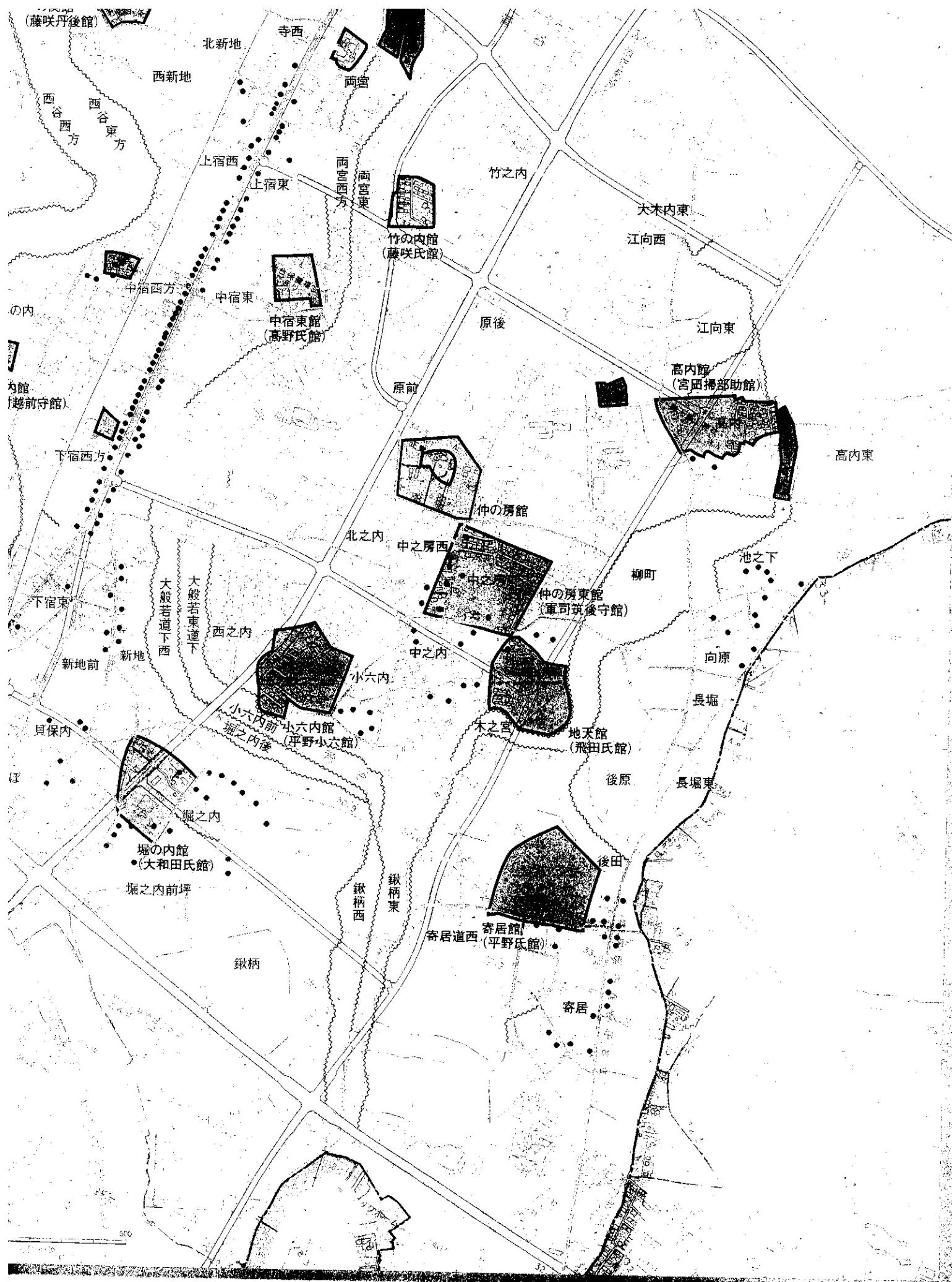
世史研究会の現地調査に基づき、城郭遺跡の範囲を■で示
名称は地名に由來したものを探用し、別称を括弧書きにして、
氏館)のように示した。

0「那珂市都市計画図其 I」(2006年3月発行)

27年(2015)1月20日

大学中世史研究会(担当 藍原怜／高橋修)





緑桜学園那珂市立木崎小学校4年生が那珂市リモート学習会 「郷土の発展に尽くした人 根本正」で名譽市民根本正を学ぶ

展 開



令和2年10月9日（金）、午前10時30分から11時20分まで、那珂市立木崎小学校（松下由美子校長）の児童12名が那珂市歴史民俗資料館との間で行われたオンライン授業で、「ふるさとのゆうめいな人根本正」について学習しました。木崎小学校の櫻村暢通先生の発案で実現したもので、今後の授業形態に一石を投じたものになりました。

歴史民俗資料館からタブレットから飛ばした映像と音声（撮影は教頭先生）を小学校の視聴覚室に設けられた大型スクリーンで受ける形で交信しました。相互の映像と会話を通して、教室での対面授業の雰囲気を出しあいながら、臨場感あふれる楽しい授業となりました。

以下に児童たちの「感想文」や「根本正学習ふりかえりシート」の結果を掲載させていただきました。ここに表れた生徒たちの「新鮮な感受性、夢に向かう意欲と実行力」に今の大いなる成長を期待したいところです。根本正も、新文明「マッチと時計」に触れた新鮮な感動と探究心、ねばり強い実践力が人生を切り開くことになったのです。

感想文集『歴史民俗資料館の皆さんへ』から（代表者数名：匿名）

○ ぼくは、前までは根本正さんの名前しかしらなかったので、根本正さんことを教えていただきありがとうございました。ぼくは、根本正さんことを知ってすごいと思ったことが二つあります。

一つ目は、根本正さんが28歳でアメリカの小学校に入って大学校まで10年間学んだことです。そして、根本正さんがアメリカに行く前の中村正直という先生はキリスト教の教えである他人へのやさしさや人間はみな身分の差ではなく平等であることを根本正さんが学んだからもっとすごい人になったんだなと思いました。

二つ目は、20歳未満は飲酒ときつえんをきん止にしたことです。きつえんは1年間で20歳未満はきん止になったけれど、飲酒がきん止になるまでは22年間もかかったことがおどろきました。そんなに長い時間ずっときん止にするようにがんばったんだなと思いました。

他にも、水郡線を作ったのが根本正さんなのも初めて知ったので、今度、家でもっと根本正さんことを調べます。（男子児童）

○ ぼくは知れて良かったと思ったことが二つあります。

一つ目は根本正さんが生まれた話です。ぼくはその話をきいて五台村東木倉で生れたと聞いてびっくりしました。

二つ目は、水郡線を作った話です。ぼくは、水郡線という名前は知っていたけど、だれが作ったのかやどこまで続いているのかが、わかりませんでした。おしえてくれてありがとうございました。(男子児童)

○ わたしは、根本正さんのことを名前しかしらなかっただけです。でも、歴史民俗資料館の方々が、根本正さんがなん歳のときに小学校に入ったかや、何を法律として始めたかなど、いろいろなことを教えてくれました。また、根本正さんが先生とした豊田天功さんや中村正直さんなどのことを教えてくれました。ありがとうございました。(女子児童)

○ ぼくは、びっくりしたことが二つあります。

一つ目は、タバコやお酒をすったり、飲んだりするのは20歳からと決めたことについてびっくりしました。どうしてかというと、根本正さんがその法律を作ったからです。

二つ目は、昭和9年にかんせいした水郡線を作ろうとしたことにびっくりしました。どうしてかというと、その当時に水郡線を作ろうと計画し、それを実げんさせたからです。今回は、ふつうじゃ知らないことをくわしく教えてくださりありがとうございました。これから、根本正さんについて勉強するときにおしえてくださったことをいかしてがんばっていこうと思います。本日は、きちょうな時間をいただきありがとうございました。(男子児童)

○ ぼくはたのしかったことが三つあります。

一つ目は、根本正さんのことがわからなかっただけで、みんながおしえてくれたおかげで、根本正さんのことがいろいろわかりました。

二つ目は、根本正さんが「ビールやたばこを20歳になってから」と決めたことを初めて知りました。

三つ目は、資料館の先生が水郡線の写真をぜんぶとったなんてはじめてしりました。これから、根本正の学習をがんばります。ありがとうございました。(男子児童)

○ 私は、おどろいたことが二つあります。

一つ目は、きんえんといんしゅの事です。私は、未成年の人は、きつえん、いんしゅはしてはいけない、ということは知っていましたが、根本正さんが考えたということを知ってびっくりしました。

二つ目は、根本正さんが28歳でアメリカの小学校に入学して10年で小、中、大学校全て学んだことです。そういう事はいまでは、ありえませんが、当時のアメリカではそのような事ができて、私は少し不思議に思います。

今回は、私たちのために、きちょうな時間をいただきまして、ありがとうございました。(女子児童)

○ 本日は、私たちに、根本正についてきちょうなお話をしてくださいってありがとうございました

た。私は、根本正についてたくさん知りました。例えば、根本正の生まれた場所は五台村東木倉、東京で会ったすばらしい先生の名は、中村正直さんということを知り、私は、根本正はとてもえらく、おもしろくすごい人と知りました。これから、根本正の勉強をしますが、この機会を生かし、根本正を知りつくしたいです。（女子児童）

- ぼくは本日、根本正さんについて教えていただいてすごいと思ったことが二つあります。

一つ目は、20歳以上の人でなければタバコをすったり、お酒を飲んだりしてはいけない未成年者喫煙禁止法や未成年者飲酒禁止法を作ったことです。どうしてかというと、未成年者喫煙禁止法を作るのには1年かけて、未成年者飲酒禁止法を作るのには21年もかけたからです。

二つ目は、水戸と郡山を結ぶ水郡線を作ったことです。どうしてかというと、一人で水戸と郡山を結ぶということを実さいに実げんさせてしまったからです。

仲田先生、中嶋先生、根本正さんについて教えていただきありがとうございました。それを今度、親にも教えてみたいです。（男子児童）

<「根本正学習ふりかえりシート」結果から>

1 正さんが行ったことで、すごいと思ったことは何？

①学校（小・中学校）の授業料を無料にしたこと	1名
②たばこやお酒を20歳になるまで禁止にしたこと	7名
③水郡線を作るために努力したこと	4名
④その他	0名

2 正さんはいろいろな苦労がありましたが、なぜがんばれたと思いますか？

あなたが思うことに○をつけてください。（複数回答）

①人の役に立ちたい！と強く思っていたから	9名
②「苦は楽の種、楽は苦の種と知るべし」という教えがあったから	5名
③家族やお友達のおうえんがあったから	0名
④国をよくしたいと考えていたから	6名
⑤その他	0名

3 「ふまれても根強くしのべ道芝の やがて花咲く春をこそ待て」

この歌は、正さんのどんな気持ちをよんだ歌でしたか？

①やってもだめなら、あきらめよう	0名
②今はつらくても、がんばればよいことがある！	12名
③自分の思い通りにするには、自分のことだけかんがえよう！	0名

4 正さんのお話をきいてどのように感じましたか？（複数回答）

①おもしろかった	5名	②すごいと思った	11名
③自分もできると思った	0名	④つまらなかった	0名

⑤その他（1名：正さんはえらいと思った）

- 5 あなたには、これかやってみたいことや夢はありますか？ 自由に書いてみましょう。
- ・まだ決めていないけど、あきらめないでいろんなことにちょうどせんしていきたいと思った。
(男子児童)
 - ・根本正さんみたいにすごい人になりたい。(男子児童)
 - ・ほかの人を助けたりしたい。(女子児童)
 - ・人の役にたつこと。ユーチューバー＆ゲーマーになりたい。(女子児童)
 - ・ゲームクリエーターになりたい。(男子児童)
 - ・サッカー選手になって周りの人にサッカーは楽しいスポーツだと教えたい。(男子児童)
 - ・夢はないけど(人の)役に立ちたい。(男子児童)
 - ・ぼくもいつか水郡線(駅の写真)を全部とりたい。(男子児童)
 - ・デザイナーになって、みんなによろこんでもらえるような洋服を作りたい。(女子児童)
 - ・ユーチューバーになりたい。(男子児童)
 - ・まだ夢は見つかってないが大工をやってみたい。(男子児童)

寄稿文

埼玉古墳群と忍城を訪ねて

菅谷地区まちづくり委員会生涯学習部会の主催する郷土歴史講座に参加をしました。

錦秋の晴天、車窓を眺めながら講師としてお招きした那珂市歴史民俗資料館館長の仲田昭一先生の軽妙な語りに耳を傾け、これから尋ねる埼玉県行田市にある国の特別史跡、埼玉古墳群の成り立ちに思いを馳ながら現地にたどり着いた。

古墳群の中にある、資料館に赴き職員の方から埼玉古墳群は5世紀から7世紀にかけて築かれた古墳であり、前方後円墳8基、円墳1基並びに小円古墳群で構成される我が国を代表する古墳群であり、古墳時代を研究する上で学術的にも重要な遺跡であるとの説明をいただいた。

また、古墳からの出土品は多くあり、特に稻荷山古墳から出土した鉄剣「金錯銘鉄剣」は館内に展示され、鉄剣には金文字が刻まれていることには驚愕と感銘を受けた。

資料館を後に古墳巡りを始めた。最初に国内最大の丸墓山古墳（直径105m、高さ18.9m）に登る。古墳上から眺める景色は説明を受けた通り様々な古墳を一望でき、古代人がこのような構造物を如何にして築いたのか。どのような有力者の墳墓なのか、その規模には圧巻であった。

さらに、この古墳は戦国時代に豊臣秀吉の小田原征伐に際し、忍城攻略の命を受けた石田三成が城を水攻めにするため、古墳の上に陣を張り周辺一体に石田堤を築いて水攻めをしたが、落城することなく要害堅固な城として2012年には「のぼうの城」として映画化もされている。

古墳散策後は、関東七名城の忍城を訪ねた。現在、城は復元され資料館として役割を担っているが、城主であった成田長親を始め一族に関する資料が展示され、内容の充実した資料を沢山見ることができた。

最後に、行程の中で仲田館長さんの人情味あふれる説明を聞き、歴史を学ぶ大切さを改めて感じる有意義な一日でした。

菅谷地区まちづくり委員会 事務局長吉原 正夫

徳川光圀

—根本正に影響を与えた水戸藩第2代藩主—

{寛永5年（1628）～元禄13年（1700）}

光圀は9歳の時3代家光から「光」の字を与えられ光国、のちに光圀と名乗りました。少年時代余り勉強せず、身分の低い者達と遊んだりしていた。しかし18歳で中国の歴史書「史記」の「伯夷伝」を読んで感動した。中でも兄伯夷と弟叔齊の兄弟が家督を譲りあったこと、武王の革命をいさめ、その革命に反対して、首陽山、（別名西山）で餓死した。光圀にとって衝撃的であり、光圀が生涯をかけて解決する大きな課題であった。それらは、兄頼重（高松藩主）の子、綱條を第3代の藩主にしたこと、「大日本史」を編纂して日本の主君は天皇であり将軍や藩主、領民はその臣下であることを明らかにした。これが前期水戸学の教えの根本である。

光圀の事績

1 大日本史の編纂

紀元体の歴史書。神武天皇から南北朝時代の終末までの後小松天皇までの歴史を記載した。明治39年、栗田寛、勤によって402巻完成。250年の年月がかかりました。

2 笠原水道を敷設

下市湿地地帯の飲料水確保。10km、1年余りで完成。費用554両、人足2万5千余人。

3 寺社の移転と整理、家臣の共同墓地の設置（常磐、酒門共有墓地）

寺院713寺破却。

4 西ノ内和紙の専売実施（旧山方町西野内）

特徴は、水にぬれても墨が散らず、乾けば元通りに使えると言うように、丈夫である事です。江戸商家の大福帳、大日本史に利用されました。

5 救民妙薬

日本最古の家庭療法の本。京都の本屋で出版全国へ普及。

6 快風丸

3回蝦夷地探検（松前、石狩）那珂湊から2回失敗。

○義公様御壁書

根本正は光圀を尊敬していたことを示すものは「義公様御壁書である。幕末から昭和期にかけて一般には「義公家訓」「義公壁書」として世の中に広まっていたが、根本はこれを人生の指針として重要視していた。

「踏まれても根強く忍べ路芝のやがて花咲く春をこそ待て」

水戸黄門漫遊一座会員 海老根 敬

常陸太田市 青蓮寺に残る病父を訪ねて三百里
豊後国 二孝女がとりもつ縁

勝山 昇

平成 17 年に常陸太田市の郷土史家により二孝女に関する資料が青蓮寺で発見された。これがきっかけとなり豊後国泊村（現大分県臼杵市）との顕彰活動が進み二孝女が取り持つ縁で、両市との姉妹都市提携が実現しました。

令和元年 10 月に常陸太田市指定文化財の集中曝涼が開催され青蓮寺も文化財と二孝女に関する資料の展示と藤井住職からの説明が予定されていました。しかしながら台風 19 号による荒天のため一部中止になりました。一年後に個人的にあらためて見学ミニツアーを計画して、青蓮寺の由来と一部の文化財及び二孝女に関する資料を見学しました。

今から 200 年前（江戸時代後期）に親鸞聖人の遺跡めぐりの旅に出て途中病気になり常陸国青蓮寺に世話になっていた父（初衛門）に再会して故郷につれて帰る姉妹「つる」と「とき」の実話です。

この親孝行に対して多くの人に共感を呼び水戸藩主の徳川治紀公から滞在費用等の支援が受けられました。この孝行姉妹の臼杵市では記念碑が建てられ小学校の校歌になり広く語り継がれています。しかしながら茨城県では平成 18 年にやっと県立高校の道徳の教科書に採用されています。

その後 3 人の運命は、父初衛門は文化 2 年（1819）56 歳で死亡、姉つゆは夫の直八となかよく暮らしたが子供に恵まれず天保 8 年（1837）に 48 歳で死亡、妹ときも結婚したが 5 年後の文化 14 年（1817）に 25 歳で死亡した。

参考出版書：豊後国の二孝女 2006 二孝女研究会
病父を訪ねて三百里 2010 新日本文芸協会



しょうれんじ 青蓮寺の文化財

青蓮寺の由来

この地には、親王であったころの天武天皇が天智9年（670）から2年ほど留まれ、帰還後に仏像や聖徳太子の像を安置したとの言い伝えがあります。その後五百余年を経て、周觀上人が天台の法流を伝え、皇跡山極樂院瑞巖寺と称したとされます。

畠山重忠の第二子重秀は、父が殺された元久2年（1205）に出家、惠空と称しましたが、父の墓を尋ねて常陸に来た際に当山の太子堂に泊って太子の夢を見、そのお告げに感じて親鸞の弟子となり、法名を性証と改めました。

性証は建保6年（1218）に再訪の折、荒れはてた境内を整え、堂宇を建てて浄土真宗の寺として住みました。その後に青い蓮の夢を見たことから、青蓮寺と改めたと伝えられています。

もくぞうあみだによらいりゅうぞう 県指定文化財 木造阿弥陀如来立像

青蓮寺の本尊である本像は、像高53.5cm、光背も含めると102cm、檜材の寄木造りの立像で、鎌倉時代後期の作（中染阿弥陀堂の鉄造阿弥陀如来とほぼ同時期）と考えられています。整った顔立ちや流麗な衣の線など、とても美しい像ですが、両手が手首から先が失われているため（現在は後補）、元はどのような印相であったのかがわからぬのが残念です。（昭和46年10月28日指定）

ぶんごのくににこうじょかんけいしりょう 市指定文化財 豊後国二孝女関係資料(17点)

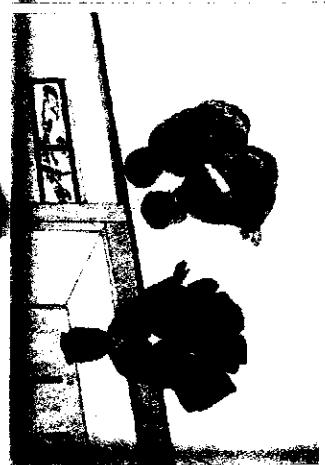
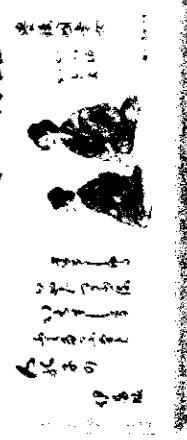
青蓮寺は「豊後国の二孝女」の舞台となった寺院でもあります。現在の大分県臼杵市の農民、河野初右衛門は、文化元年（1804）に浄土真宗の開祖親鸞上人の遺跡巡拝の旅に出発。京都、越後、陸奥を遍歴するも病に倒れ、ついにここ青蓮寺で動けなくなりました。文化8年（1811）、親鸞上人550回忌の折、京都西本願寺で青蓮寺住職と初右衛門の菩提寺である臼杵の善正寺住職が出会い、初右衛門が病臥、7年におよぶことを伝えました。知らせを聞いた初右衛門の娘つゆととき（当時22歳と19歳）は、周囲に反対されながらも臼杵を出発、同年6月から4ヶ月かけ幾多の苦難を乗り越えて約300里（約1200km）を踏破し、青蓮寺で再会を果たした3人は、水戸藩や臼杵藩の援助を受けて、翌年無事に帰郷をはたしました。

この物語は、臼杵では代々語り継がれ、供養碑が建てられ、地元の小学校の校歌にまでなっています。一方の青蓮寺には、残念ながらこの物語は語り継がれていませんでしたが、平成17年春に、地域の研究者の手によってこれらの資料の存在が明らかとなり、各種の資料をまとめた「豊後国の二孝女」が豊後国の二孝女研究会によって発刊され、注目を浴びることとなりました。現在では、県立高校の道徳の教科書にも採用されています。また、物語調に現代語訳した「実話 病父を尋ねて三百里 豊後国二孝女物語」も発刊されています。

平成22年、関係資料17点が市指定文化財になり、青蓮寺境内に顕彰碑が建てられました。なお、平成23年5月には「二孝女顕彰会」が発足し、二孝女の顕彰活動を推進しています。（平成22年9月8日指定）

病父と尋ねて三百里

豊後國の二孝女物語



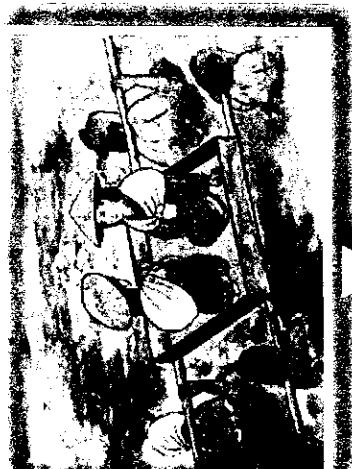
この物語は、江戸時代後期の文化八年（一八一）に、豊後国日杵（現大分県日杵市）の若い二人の姉妹「つゆ」と「とき」が、親鸞聖人の遺跡巡拝の旅の途中に病気になり、青蓮寺（常陸太田市東蓮地町）で世話をしていた父（初簡門）を迎えるために、約三百里（約1200km）離れた常陸国の青蓮寺へと向かうお話です。

一人の姉妹は、日杵から青蓮寺までの二ヶ月、旅の途中で出会った人たちの手助けて、盗賊から身を守られたり、関所を無事に通過したり、様々な危機乗り越えた末に、七年ぶりに父と会うことができました。つゆが二十二歳、ときが十九歳の時でした。

こうした姉妹の父懇意いの行動が、水戸藩や日杵藩の共感を呼び、様々な支援を受けて、翌文化九年（一八二）春、無事に娘子三人で帰国を果たしました。

姉妹の地元である日杵市では、小学校の校歌にも歌われるなど、親孝行物語の美談として語り継がれています。

平成十七年に青蓮寺で、日杵藩江戸屋敷から青蓮寺宛の手紙や姉妹からの札状など十七通の墨筒が発見され、この物語が史実であるとわかりました。



【根本正と幕臣たち】

理事 仲田昭一

明治2年（1869）5月、五稜郭で敗れ降伏した幕臣榎本武揚・松平太郎・大鳥圭介・荒井郁之助・永井尚志・松岡磐吉・相馬主計らは東京辰ノ口の糾問所へ投獄された。しかし、黒田清隆や福沢諭吉らの尽力により明治5年放免され、明治新政権の下各分野で活躍した。内部抗争の末に処刑や斬罪で多くの人材を失った水戸藩とは大きく異なるところである。ここでは、荒井郁之助・江原素六を資料的に紹介しておきます。

(1) 荒井郁之助 天保7年(1836)4月29日～明治42年(1909)7月19日

名は顯徳・顯理

父 = 幕府御家人関東郡代付代官 荒井清兵衛顯道（顯道の弟は矢田堀景蔵）

叔父矢田堀景蔵らに漢学・儒学を学び素読、14歳昌平坂学問所（昌平齋）入学

関雪江の書道・石川瀬平治の直心影流剣術、鶴殿十郎左衛門の弓術高麗流八条家、馬術、18歳で西洋砲術・

安政4年 長崎海軍伝習所に学ぶ 航海術・数学・測量術（江戸湾測量担当）

・20歳で幕府に出仕、蘭学修行後に軍艦操練所教授

文久2年(1862)9月 軍艦操練所頭取

元治元年(1864)4月 講武所頭取（陸軍總裁勝海舟に請われて陸軍へ）

慶応元年(1865) 歩兵差図役頭取

横浜で大鳥圭介らとフランス式軍事伝習を受ける「気をつけ」「前へ進め」などの号令を日本式に訳す

慶応3年(1867)5月 歩兵頭並

慶応4年(1868)1月 軍艦頭 海軍副總裁榎本武揚らと品川脱出、

軍艦「回天」の司令官 蟠龍・高雄を率いて宮古湾へ

箱館戦争 箱館政権（蝦夷共和国）の海軍奉行、陸軍奉行は大鳥圭介、
陸軍奉行並は土方歳三 総裁は榎本武揚

降伏・禁錮3年 出獄後は開拓使へ

開拓使顧問ケプロンは、特に教育と測量事業に尽力

荒井は測量技術者として活躍

「北海道浦川図」「北海道石狩川図」「北海道実測図」などを残す（開拓使測量長
米人ワッソン、デイラから学ぶ）。

内務省地理局測量課長へ……測量事業の基礎づくり

経度測定・標準時制定・皆既日食観測

明治8年(1875)東京気象台設立

明治9年(1876)6月 開拓使仮学校・女学校の校長（「北海道教育の先駆者」）
(札幌農学校・北海道大学の前身)

気象学・翻訳 → 明治20年(1887)新潟県永明寺山（三条市）で皆既日食観測、
日本で初めて太陽コロナの写真撮影に成功

明治12年(1879)内務省測量局長 明治15年(1882)辞官

明治20年(1887)東京気象台を中央気象台と改称

明治23年(1890)8月 初代中央気象台（東京気象台）台長。後、浦賀ドック創立に尽力

明治43年(1910)3. 12 鹿島灘・九十九里浜沖の暴風雪大海難事故

3. 22 第26帝国議会で根本正が「高層気象観測所設置建議案」提出
大正9年(1920)高層気象台発足(初代台長大石和三郎)

※ 明治神宮絵画館の「出師當の會見」は子息荒井陸
男の作 終生「平民」を通す
墓碑 港区広尾「祥雲寺」 追悼碑は荒川区
三ノ輪円通寺(旧幕臣戦友会「碧血会」が建立)、
榎本武揚・大鳥圭介追悼碑もある。



(2) 江原素六(御家人から静岡藩士、政友会、クリスチヤン)



静岡学問所 : ; 素六は静岡学問所の運営に当たる 沼津の江原素六記念館

※ 学問所の性格は「開成所・横浜語学校・昌平塾」の合体のようなもの

士族授産・殖産興業・教育振興に情熱 → 麻布学園創立
明治4年4. 8サンフランシスコ上陸・ニューヨークへ 明治4年12月25日帰国
明治7年(1874)カナダ・メソジスト協会宣教師ミーチャムの洗礼「静岡バンド」
明治39年(1906)大日本平和協会(在日米人平和協会・日本人キリスト者)設立
会長江原素六(1906~1909) 大隈重信(1910~1922, 1. 10死去)
会員 板垣退助・渋沢栄一・尾崎行雄・新渡戸稻造・加納治五郎・根津嘉一郎、
吉野作造・志賀直哉・武者小路実篤・500人超の会員数

[会の目的]

「人種間及国家間の関係をして親密ならしめ、國際紛議が成るべく平和的手段を以て解決せらるる様に尽力し、以て世界の平和を保全し人類の幸福を増進するにあり」

→ 改革時の1912年(在日米人平和協会・日本人キリスト者、政・財・官界人)

根本正の『支那満鮮』

→ 大正14年(1925)国際聯盟協会に吸收 非戦論・義戦論を含んだ平和運動
で「国際協調平和運動」と言うことができる(坂口滿宏氏「国際協調型平和運動」)

[設立背景]

日露戦争後は対外硬的論調の沈静化、陸軍増師への反対与論の盛り上がり、反藩閥の機運が憲政擁護運動支持へと連動し対外紛争の解消には外交手段をもつてする思潮の広がり、

娘ナツ子は福井菊三郎(三井物産理事)の妻。江原は大隈重信自筆の書翰で福井への財政支援を依頼

編集後記

11月半ば過ぎというのに、「本日は最高気温が23度で、ぽかぽか陽気になり日中はシャツ一枚で過ごせるでしょう」と、TVで気象予想士がコメントしています。

小生の住んでいる茨城県那珂市では、ここ三日ほど暖かい日が続いて、今週いっぱいはこの状態が続く予想とのこと。日中暑かったと思ったら、夜は急に冷え込み、寒暖差も10度C以上あるのが普通になってきました。

気象庁は、7月の記録的な大雨や日照不足は、地球温暖化に伴う海水温度の上昇が原因と発表しています。今後は、海水温度もどんどん上がっていき、異常気象も増えていくものと思われます。

私たちにできることは、自分の住んでいる地域は、どのような地形・地質的な特質を持っているのかをよく調べ、自分や家族の安全を考え（自助）、また、支援の必要な人には近所で助け合いながら（共助）、異常気象に対処していきたいものです。

今年のもう一つの大きな事象は、コロナ禍でした。今日の朝刊に、都、警戒度「最高」引き上げ 新型コロナ初の500人超え 国内も最多2225人（11/20.産経新聞）が一面トップに載っていました。

自粛コロナで国民の協力・理解のもと新規患者数が落ち着いてきたかに思われましたが、冷え込んだ経済を立て直そうと、政府の観光支援事 GOTO トラベル・GO-TO イートが始まると併に、感染拡大の第3波が押し寄せたのも偶然でしょうか。

イギリスの新型コロナウイルス対策を策定している「非常時科学諮問委員会（SAGE）」の委員が「人類は新型コロナウイルスと何らかの形で永遠に共存していくだろう。インフルエンザのように、定期的にワクチンを接種することになると思う」と話していました。

地球規模の異常気象の頻発や新型コロナウイルス蔓延は、我々人類に対する何らかの警告かもしれません。もっと地に足を付けて歩みたいものです。

さて、前書きが少し長くなりましたが、前述のコロナ禍により、わが顕彰会の行事計画も白紙せざるを得ない状況で今まで経過しましたが、「根本正顕彰フェスティバル」は規模縮小して11月21日に菅谷まちづくり委員会（菅谷地区自治会の上部団体）と共に催の形で実施いたしました。このような私たちを取り巻く厳しい環境ですので、ご理解の程よろしくお願ひいたします。

来たる新年は、天候が穏やかに、また、コロナ禍が早期に終息することを願い、会報95号をお送りいたします。

なお、広報担当では、皆さま方からの投稿をお待ちしております。

（山田正巳 記）

